

福知山公立大学 2016年度卒業式・学位授与式 式辞

今日、ここに福知山公立大学を卒業され、学士の学位を取得された28名のみなさん、本当におめでとうございます。ご家族ご親族の方々にも心からお慶びを申し上げます。また、福知山市長様をはじめ、ご臨席賜りましたご来賓各位に厚く御礼申し上げます。後ほどお祝いの歌声で式典に花を添えてくださる福知山混声合唱団の方々にもこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

卒業生のみなさんは、ご家族・ご親族だけでなく、これら多くの地域の方々やここに参列している本学教職員たちに支えられ、祝福されて今日の日を迎えられたことを深く心に刻んでおいてください。

みなさんは旧成美大学に入学して福知山公立大学の第1回卒業生として学生生活を終えられるという、予想もしなかった経験をされました。在学中に十分な情報を得られず、説明も受けず、先の見えない不安に陥ったこともあったでしょう。その責任の一端は私たち大学側にあったことを率直に認め、お詫びも申し上げます。そのうえで、大学のこの大きな転換の中、不安を乗り越えて今日を迎えられたみなさんの努力に敬意を表します。同時に、みなさんがその貴重な経験から多くを学び、自信を持ち、これからの人生に生かしてくださることを期待します。なぜなら、これからみなさんが働き、暮らし、築いていく社会は先行きがよく見とおせるものでなく、むしろ暗闇と混沌と不安の方が多いた方が現実ですから。

6年前の東日本大震災。昨年の熊本大地震や予想もしなかった東北・北日本の台風被害。福知山市では2013年と2014年に台風と集中豪雨による大規模な水害がありました。復旧支援の活動に参加された人もみなさんの中にはいるでしょう。大規模自然災害は世界のいたるところで、大地震・巨大台風や豪雨・記録的な大寒波や熱波等々、さまざまなかたちで生じています。その原因はよくは分かりませんが、大きく言えば、長い間の人類の諸活動が自然界の不安定さをつくりだし、その結果、私たちは新たな克服すべき課題に直面しているのだと言うべきでしょう。そのうえ、人類はまだ恒久平和を達成できずに至らず、相変らず内戦やそれに伴う飢餓や難民問題をかかえ、それを国際的な協力と共同で解決していく道さえも定かではありません。それどころか、相変らず核兵器や軍事力の強化で戦争を抑止できるという錯覚がまかり通っているのが世界政治の現状です。また、現代日本では高齢化や少子化、とりわけ人口減少社会に入って地域社会崩壊の危機が叫ばれ始めてすでに久しいのですが、それを乗り越えて持続可能な社会を築いていく道はまだはっきりとは見えていません。総じて暗闇のなかで多くの不安を抱え込んだ世界に私たちは生きているのかも知れません。

しかし、みなさんはこの大学での学びで体験されたとおり、どの地域にも地域を持続可能な社会に変え、日本が変わり、世界が変わると、日々懸命に暮らしている人たちがいます。その営みは私たちをとりまく暗闇と不安の世界では、小さくてまだよくは見えては来ないでしょう。けれども、不安を克服して成長してきたみなさんにはきっと見えるはず。どの地域にも「新しき明日」を迎えるために、力を尽くしている人びとがいます。みなさんもその仲間に加わるため、いま旅立ちます。

馬車を支度し、ラッパを合図に、鞭を鳴らし、わたちの歌を高らかに、さあ、出発です。

では、みなさん、ごきげんよう。

2017年3月18日

福知山公立大学長 井口和起